

子どもファーム・ネット通信



◇内 容◇

- (1) 活動コンクールのかべ新聞第1号が到着しました!! ……1
- (2) 会員事例の紹介／中学校特集
東京都・神谷中学校 奈良県・西吉野中学校…2・3
- (3) 活動コンクール 今年の「よくあるご質問」……4
- (4) 人物紹介 熊本県／田小野子供会 岩崎啓司さん……4

第2号 発行／平成19年10月

発行人／全国子どもファーム・ネット推進協議会

編集人／子どもファーム・ネット全国事務局

電話：03-3266-9101 FAX：03-3266-9104

Eメール：kirari@kodomofarm.net

ホームページ：http://www.kodomofarm.net

活動コンクールのかべ新聞第1号が到着しました!!

いよいよ秋も本番、北の国ではもう初冬の時季がすぐそこです。

子どもファーム活動コンクールの締め切りも11月30日に迫りました。今年の応募第1号は、福井県のJA花咲ふくい「里の子学校 つくしんぼ」グループでした。

○1年間の農業体験活動のまとめを「かべ新聞1枚」に表現し、応募していただくこのコンクール。今年で3年目です。入選グループの子どもたちの多くは、入選して全国交流会に招待されると、全国の仲間たちの作品を見て「来年はがんばろう!」とはりきるのだとか。地元に戻ってからの態度にも一段と成長が感じられ、報告会での発表がりっぱだった、というお話をよくうかがいます。発達段階に応じた、子どもの意欲づけに役立っているようですね。

全国のみなさん、入選めざして、がんばってかべ新聞を制作してください!!

◎関連記事の4ページもお読みください。

お知らせ 新しいホームページはもうご覧になりましたか?

「子どもファーム・ネット」のホームページ（HP）が9月10日、新装開店いたしました。

ここでは、新しく付け加えられた機能をご紹介します。

- 受け皿紹介等の会員団体リンクを主体にした参考情報提供、17・18年度の入選作品（かべ新聞）を一括掲載しました。活動コンクール応募の参考にはもちろん、全国の農業体験がどんな内容で行われているかも把握できる、貴重な資料としてご活用ください。
- 中学校のページ。ここでは、登録会員グループの中学校だけに限らず、総合学習・職業体験（キャリア）教育などで農業体験に取り組んでいる優良事例を紹介していきます。
- 他のグループとの交流は活動の活性剤——子どもたちの意欲付けに、活動支援者のよき相談相手に、グループ間交流はとても有効です。このきっかけづくりに、ファーム・ネットは取り組んでいます。現在、ホームページ上で交流を希望するグループを募っていますが、ご希望をうかがい、相手のグループをご紹介します「お見合い」コーナーも行なう計画です。全国でさまざまな交流が芽生え、励まし助け合うネットワークになるといいですね。

お知らせ 気軽に話せる場の「(仮称)情報交換ブログ」が間もなく登場します

- みなさんが中心になってつくる広場です。全国の農業青年有志のご協力で、活動支援者のみなさん・子どもたちの気軽な情報交換およびそれを応援しようという方たちの広場として、設置する予定です。日本の農業の現状や農業を担う方たちの本音なども含め、有意義な「情報交換の場」となれば幸いです。

中学生のお兄さんお姉さんも がんばっているね!!

いつかは僕らが担い手に! 「日本一の柿づくり」の 産地の努力を学ぶ

奈良県・五條市立西吉野中学校

祖父母の世代からの努力により、日本一といわれるようになった「西吉野の柿」。西吉野中の生徒の7割の家庭が、専業、兼業で柿を栽培しています。

「柿に込めた地域の想いを子ども達に伝えることで、ふるさとへの誇りを育てたい。次世代の担い手育成につなげたい」そんな想いからはじまった柿づくり授業は、すでに20年以上の積み重ねがあります。

総合学習「カッキータイム」では、地域の人を先生に実習園等での年間を通じた柿栽培（全校）イベントでの販売（園芸委員他）、柿料理や柿渋工芸などへの挑戦（学年別）などに、年間を通して取り組んでいます。

その他に、地域の方を学校に招いて柿づくりの苦労や夢、地域の課題を教えていただいたり、3年生は柿の選果場で「1日就労体験」などもします。

余分な蕾や実をきちんと摘む摘蕾・摘果をしないと、秋にりっぱな実が収穫できないこと、冬の剪定を上手にしないと次の年の作業がやりにくいことなどを身をもって学び、3年生になると下級生を指導するまでになります。

「家では、子どもは柿づくりに目を向けません



昨年のファームネット応募作品より



600キロも収穫したよ!



地域の「食の達人」と一緒に、いろいろな柿料理を開発中。

でした。でも授業を通じて、子どもの方から柿の話をしてくれるようになり、家庭での会話が増えた」と保護者に喜ばれていますと、担当の平先生。

「仕事の大変さがよくわかった」「これをしている農家の人はすごいなあ」「(イベントで柿を売って) たくさんの方が声をかけてくれた。おいしいといわれてうれしかった」という生徒の感想からは、地域ぐるみで取り組むこの授業の大きな意義を読み取ることができました。



1～3年生でグループをつくり、1本の木で柿を栽培する。

「豊かな心を育てる」 農業体験学習の成果を発表

東京都・北区立神谷中学校

総合的な学習の時間が導入された6年前から年間を通じ全学年で農業体験をおこなっている神谷中。平成18・19年度 文部科学省人権教育研究指定校として、この取り組みの成果が注目をあび、10月11日(木)に教育関係者ら約340名を集め、研究発表会をおこないました。当日は食農委員の生徒や先生、受入先の農家が報告をおこないました。



命の大切さを伝える生徒たち。

最初は「服は汚れるし、つかれるし、何より虫が多いのが嫌だった」という生徒たち。でも、実際に農作業を続けていくうちに「汗をかかないと、おいしくて人にやさしい大地の恵みを味わうことはできない」ということを知って、農業に携わっている人たちを尊敬するようになったと言います。

受入先の農家からも、「はじめは頼りなかった子どもが協力して仕事を成し遂げる喜びを知り、根気強く作業を続けていく姿を見て成長を実感した」との報告がありました。実は、以前、生活指導面で問題を抱える時期もあった神谷中。学校中から生徒たちの明るい笑い声とあいさつが響いてくる現在の様子は、まさに農業体験学習の成果だと言えるのではないのでしょうか。

子どもファーム活動コンクール、締め切り迫る!! 11月30日(金) 今年のおよくあるご質問

質問 かべ新聞には、何を貼り付けてもいいの?



答え

じつは昨年の応募作品にも、折りたたんだ紙を開かせたり、ノートを貼り付けたりといった、立体的な作品がありました。飛び出す絵本のようなかべ新聞も。子どもたちのアイデアはすばらしいですね。「表現方法は自由」ですから、子どもたちのアイデア・工夫をできるだけ活かしてあげたいものです。しかし、ここで事務局から配慮していただきたい点もあります。
★作品は壁に貼って展示するため、重量・厚さはわずかな範囲でお願いします。
★また、紙を開くことで完成する作品は、規定の大きさ違反になる可能性があります。
入選した作品(かべ新聞)は壁に展示され、審査委員の先生方が一つずつ評価して回ります。以上をご配慮のうえ、審査委員を驚かせ、感動させてください。

●応募方法

農業体験活動をかべ新聞(市販の模造紙・大1枚)にまとめ、活動報告書を添えて事務局まで送ってください(1グループ1作品)。白黒でもカラーでも、写真やイラストを使ってもOK。必ずタイトルとグループ名を書いて。活動報告書の入手や審査基準など詳しい要領は、ホームページや全国事務局から得ることができます。

☆作品の送付・問い合わせ先

全国事務局 電話03-3266-9101
FAX03-3266-9104
ホームページ
<http://www.kodomofarm.net>

人物 紹介

熊本県・田小野子供会
山都町役場 岩崎啓司さん

かべ新聞づくりの季節が やってきました!!

わが田小野子供会(保育園児6名、小学生16名)は2年連続で「子どもファーム活動コンクール」に入賞。全国交流会に参加しました。地域集落の小さなグループですが、前回の奨励賞に続き「子どもファーム・ネット大賞」。子どもたちは大喜びでした。

一年間の活動を、1年生から6年生までが1ヶ月かけて考え、作成する姿は、田小野公民館活動の一つの重要な行事になりました。20数年前から「もやい農園」で田植えから稲刈りまでの活動を続けていますが、老人会から舅姑世代、お父さん・お母さん、子どもたちと、世代間交流を通し、すばらしい人間的なふれあいの地域活性化だと自負しています。

何年も稲刈りをしてきた子は、鎌をもてば周りを注意し、みごとに手さばきで刈り、大人を感心させます。

地域のだれにでも、何の気兼ねもなく挨拶ができる田小野の子どもたち。太鼓部ともいっしょの活動なので、子どもなりの上下関係も自然と育っています。

11月3日、熊本で開催される全国育樹祭の「緑の少年団活動発表大会」の開会式で、なんと田小野子供太鼓が熊本県を代表し、全国から参加される緑の少年団を太鼓の演奏で歓迎します!



バス停で子どもたちと、岩崎さん。



報告会には、小学校長、自治振興会長、民生委員長、区長、公民館長などのたくさん人がお祝いに。



田植えの風景です。